

復旦大学セメスター留学便り 10月 (引率教員版)

早いもので、二ヶ月が過ぎました。10月の様子をお知らせします。

1日(水)～7日(火) 国慶節休暇

休暇は一週間ありましたが、一部授業が前後の週末に振り替えられたので、休暇明けは疲れる一週間となりました。

14日(火)～23日(木) 個人面談(後述)

16日(木) HSK 補講開始

今回は人数上、一クラスで行うことになり、内容も4級対策となりました。5級を受ける学生も何人かいるのですが、4級で高得点をとれないようでは5級受験も覚束ないという事で納得してもらいます。

日本人は漢字には慣れているので、一般に①読む②書く③聞く④喋る、の順で能力がつきます。とくに読む能力が突出しているので、4級レベルの内容は理解可能でも、同レベルの内容を喋ることができない、という状況に陥る傾向があります。欧米等の漢字文化圏以外の人々は、逆に会話能力に比べて読み書きの能力が劣る、という傾向にあります。中国人講師は会話能力からレベルを推し量るので、学生が自覚している能力との間に認識の差が生じます。そのため、授業内容は理解できるのにそれを講師に伝えられない、というもどかしさを学生は感じたようです。このもどかしさも学修の原動力にして、乗り越えて欲しいものです。

17日(金) 交流会

復旦大学中文系の学生との交流会を行いました。会話が続くか心配だったのですが、どこでも盛り上がっていて安心しました。連絡先を交換し、出かける約束をした学生もいました。

【学修面】

全学生との個人面談を行いましたので、その所感を述べておきます。

学力の伸びにも個人差があり、留学してからの進歩を実感している学生もいれば、変わらないと言う学生もいます。制度上、レベルの差がある学生たちを一つのクラスで勉強させているので、物足りなく感じる学生もいれば、努力しなければついていけない学生もいます。後者は、努力に応じて目覚ましい進歩を見せる傾向があります。前者には、自分で課題を見つけて取り組む積極性が求められます。

学生版の便りにあるように、忙しい毎日ながら出席率はよく、遅刻もないようです。曜日によっては8時から授業が始まるのですが、きちんと出席しています。引率も4回目となり、男子学生は遅刻しがち、もしくはギリギリに来る、という認識があったのですが、

授業開始 10 分前に着席しているのを見て考えを改めさせられました。この真面目さがよい成果をもたらすことでしょう。

【生活面】

学校と宿舎の往復の毎日のためか、食事をする場所もほぼ決まっている学生が多い一方で、あちこちの新しい店を開拓している学生もいます。

今年は時間割のため勉強に追われる日々です。週末は出かける気力のない学生もいれば、少ない休日を惜しんで上海探索に出かける学生もおり、過ごし方は様々です。

北京や天津では大気汚染が続いていますが、上海は良好な状態が続いています。重度汚染日は滅多にありません。このまま、持参したマスクが無駄になることを期待しています。

(引率 佐川 記)